

# えでゆけ インフォメーション

## ■協会総会のお知らせ

日時：2017年6月7日(水)17時～19時まで 会場：協会事務所(半蔵門)

## ■2017 ブレインジムディ

日時：2017年8月5日(土)10時～17時 会場：スタンダード会議室(新横浜)

## 協会主催 ■海外講師による特別講座

### ■ブレインジム170 「特別支援教育に関わる人たちのためのブレインジム」

日時：2017年11月11日(土)～14日(火)

講師：セシリ亞・ケスター 会場：横浜市内もしくは東京都内

### ■MBLT ビルディング・ブロック・アクティビティ指導者養成講座

日時：2017年11月15日(水)

講師：セシリ亞・ケスター 会場：横浜市内もしくは東京都内

### ■セシリ亞・ケスター講師1日特別講座 日時：2017年11月18日(土)・19日(日) 会場：盛岡市内

### ■DDP ダブル・ドゥードゥル・プレイ講座

日時：2018年1月20日(土) 講師：グレニス・レッドビーター 会場：横浜市内もしくは東京都内

### ■DDPTP 日時：2018年1月21日(日)・22日(月)

講師：グレニス・レッドビーター 会場：横浜市内もしくは東京都内

## ■2018年 第10回協会主催BGTP(インストラクター養成講座)

日時：2018年2月10日(土)～14日(水)

講師：たむらゆうこ 白木原雪乃 亀田せんじゅ 会場：神奈川県内

※会場が未定な講座は、決定次第  
ホームページにてお知らせいたします。

【申し込み】事務局 [jimukyoku@edu-k.jp](mailto:jimukyoku@edu-k.jp)

●<えでゆく>は、知ってるとちょっとお得な豆知識コーナーです

## 空間を把握する脳のメカニズム③

天田 武志 (神奈川)

という空間を把握するための一連の情報処理をしているのですが、脳は位置情報やルートを、どのように記憶し、処理しているのでしょうか。

空間を把握する脳のメカニズムは1900年頃から、ラットやマウスを使った迷路実験で研究されてきました。そして1971年、ロンドン大学のO'keefeとDostrovskyは、自由に行動しているラットの海馬から、特定の場所にいるときだけ反応するという性質を持つ細胞を発見し、場所細胞(place cell)と命名しました。場所細胞は「場所X」に来ると必ず「x細胞」が発火し、「場所Y」に来ると「y細胞」、「場所Z」になると「z細胞」が発火する性質があることがわかりました。さらに、場所Xに来る前にラットがどこにいても、また場所Xにどの方向から近づいても、必ずラットのx細胞が発火しました。つまり場所Xとx細胞は強く結びついていました。場所細胞はラットだけではなくマウス、コウモリ、サルでも見つかっています。また人間にも存在することを裏付けるデータも報告されています。

ブレインジムのバランス調整のとき、「方向音痴を治したい」というような目標が、意外と多かったりしませんか？

日本人の約40パーセントを占める方向音痴の人にとって、それは重大な問題なのでしょう。

私の知り合いにも、

●地図は読めるが、何故かいつも反対方向に第一歩を踏み出してしまう

●地下鉄の駅を出た最初の一歩さえ間違わなければなんとかなるけれど、いつもその一歩を間違える

という人がいます。

方向音痴ではない(はずの)私も、地下鉄の駅から地上に出た後の第一歩は、慎重になりますが…。

私たちは、例えば近くの公園に行こうと思ったとき、脳の中で無意識に

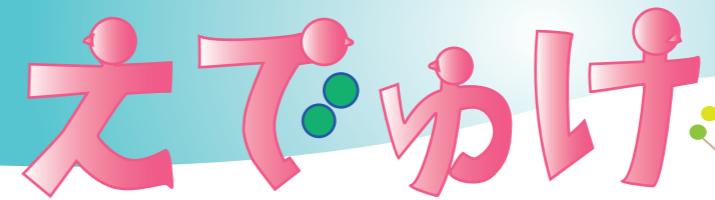
(1)自分が今いる場所を確認する

(2)公園がどこにあるかを把握する

(3)今いる場所から公園までのルートを作成する

## 学びへの扉

<http://www.edu-k.jp>



vol. 17

Spring 2017

BRAIN GYM® JAPAN

季刊(年4回発行) 発行:NPO法人日本教育キネシオロジー協会 東京都千代田区平河町2-11-10 パークウェスト301 電話03-6272-6037 企画・制作:KIスタッフ

「未来のために」ブレインジムができること⑧

## 「障がいを持つ方のための自立支援ブレインジム」

かいづか なおみ (茨城)



ブレインジムは知的に障がいを持つ方達にも役に立つのではと、2年ほど前から、茨城県牛久市にある特定非営利活動法人「おおぞら」で「障がいを持つ方のための自立支援ブレインジム」を月に2回継続して行なっています。おおぞらの理念として「障がいがあるとしても、社会の中で自分で判断し、自分ができることをして生活することは大切なこと。そのためには教育が必要。」とあり、ブレインジムを就労支援の活動に導入してくれたのでした。おおぞらに通っている方達は、身体感覚が過敏だったりあいまいだったり、手先を使うこと、言葉で表現すること、集中して作業をすることが難しいなど、一人ひとり課題はいろいろあります。

初めてブレインジムをしたときは、動きの真似をすることも難しかった

人が、今では少しずつスムーズに動けるようになってきました。言葉の出なかった人がどんどん話すようになりました。「これからどうなりたい?」と聞かれて口ごもっていた人が少しずつ「目標」を考えられるようになりました。

おおぞらの秦靖枝理事長からも次のような期待の言葉をいただきました。

私たちは意外と自分の体のこともよく知らないし、脳の働きが身体全体

の活動と細かく連携しているということを意識することはなく生活しています。長年の知的・発達障がいのある人たちとの関わりの中で、彼らは自分の体を思うように動かすことができないと感じていました。

ブレインジムすることで、障がいのある人たちがもっといろいろなことを考えたり、行動ができたり

するようになるのではないかと思い、日常の支援の中にブレインジムを取り入れました。私自身が体験して、ひとつひとつの細胞や体の器官が活性化することと、脳の働きがつながって、気持ちや身体が変化するのではと感じました。障がいのある人も心と体のことをしっかりと学び、社会と上手につながり、より活動が広がることを期待しています。

「おおぞら」に集う皆さんの可能性を信じ、これからも楽しく取り組んでいきます。



## Brain Gym® Day ブレインジムディ

2017.8/5.sat

開場 10時 開講 12時50分 終了 17時

会場 新横浜駅 スタンダード会議室6階B・C

- 午前 10時～ ポスター発表・ブレインジム関連物品販売
- 午後 12時50分～ シンポジウム

### シンポジスト (敬称略・予定)

足立 一 「刑務所で」

五十嵐 郁代 「精神科診療所で」

松尾 実恵 「精神科病院で」

多田 淳子 「精神科病院で・子どもの育ちを支える」

福田 澄 「教育現場で」

ブレインジムはそれぞれの現場で  
どんなふうに役に立っているの?

参加費 (消費税込み)  
一般参加 当日券 3240円 前売り1週間前迄 2700円  
会員参加 当日券 2700円 前売り1週間前迄 2160円

シリーズ

## プレイングをする上で私が大切にしていること②

### 「身体の知恵と生命感覚：気づき＝ノーティシング」

末松 晴美（東京）

今回このコラムで担当させていただく4回シリーズでは、シャイナー教育の感覚論と野口整体を通して、プレイングのあちこちに光を当てようと試みています。

シャイナー教育では触覚・生命感覚・運動感覚(固有覚)・平衡感覚の四つの感覚が、幼少期に充分に発達することを重要視しています。

前回の触覚に引き続き、今回は生命感覚を取り上げます。感覚統合などでは、触覚・固有覚・平衡感覚の三つの感覚が働きかけの主な対象であり、この生命感覚というまとまった視点はありません。しかし、実は全ての感覚のベースにこの生命感覚があり、直観にまで昇華した高次の生命感覚も想定できるほどに大切な感覚とも言えます。狭義には内臓感覚とも言われるように、自分の臓器の生命活動に対する感覚です。生命活動が通常の範囲を大きく逸脱した時に「不快」と



覚とも言われるよう、自分の臓器の生命活動に対する感覚です。生命活動が通常の範囲を大きく逸脱した時に「不快」と理由を尋ねると、汚い、臭い、お化けが

### 2月に新しくインストラクターが誕生しました

#### BGTP講座受講記

2月11日から15日までの5日間、BGTP研修に参加しました。プレイングをTeacherとして伝えるための、内容の確認が主な研修内容なのだろうと予想していました。ところが始まってみると、内容と同時に、伝えるときの生徒との間の立ち位置や姿勢(例えば、生徒に背を向けること)、動き方など、伝えるための形や構造について細かく指導を受けました。それには生徒が座る椅子の配置など、その時々の場のしつらえ方も含まれます。

私は障がいのある方の就労支援をしていて、週に何回か利用者さんとの勉強の時間がありますが、自分の声の強弱や全員とやり取りすること以外、自分のふるまいをほとんど気にしてきました。



片岡 淳（東京都）

インストラクターに求められるわかりやすいプレゼンテーションとは、また生徒の理解を促進するファシリテーションとはどういうものなのかを考え実践する、研修の目的はそこにあったと思うのですが、私自身は日頃の仕事の仕方を振りかえり反省、猛省する良い機会になりました。プレイングでは生徒の「気づき」を大切にします。伝える内容と伝える形・構造、その両方が大切なのだということ、そしてそれは生徒を尊重し生徒の「気づき」を促すためのベースラインであるということが、私のBGTP研修での一番の「気づき」となりました。

講師の先生方、スタッフの皆様、そしてともに悩みベストを尽くして研修を乗り切った仲間に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



シリーズ

## プレイングと私⑯

このシリーズは、インタビュー形式での連載となります。プレイングとの出会いや活動を皆さんに熱く語っていただこうと思います。

### 『Movement is the door for learning』

竹村 文さん（横浜市）

#### Q) 竹村さんのプレイングとの出会いは？

以前にアメリカで、発達に遅れのある子ども達を対象にしたABA（応用行動分析）のセラピストとして働いていました。子ども達の大半は、字を上手く書けない、協調運動が苦手、動眼運動が上手にできない、呼吸を止めてしまうなど、身体の使い方に何らかの困難を抱えていました。作業療法士や理学療法士のサービスとは別に、家庭で親子一緒にできる、簡単で安全な身体へのアプローチ方法を探していました。たまたまSNSで目にしたのが、医師などの専門家が執筆したプレイングについての記事でした。半信半疑でしたが、早速プレイング101を受講しました。その時に、身体にアプローチするプレイングは教育で可能性があると感じて、セラピーにぜひ取り入れたいと考え、改めて学び始めました。



#### Q) 現在はどんな活動をされているのでしょうか？

主にダウン症や自閉症、学習障がいなどの発達に遅れのある子ども達を個別指導するときにプレイングを取り入れています。お子さんだけでなく親御さんにも体験していただくために、ご家庭で簡単にできるエクササイズを提案しています。そのほかには、教育財団「優愛」を通して、子どものためのプログラムとビルディング・ブロック・アクティビティ(BBAs)などの講座を開催してい



#### 教育キネシオロジー講座のご紹介⑤

### [ダブル・ドゥードゥル・プレイ(DDP)]

ダブル・ドゥードゥル・プレイは教育キネシオロジーの中では入門にあたり、子どもからシニアの方までどなたでも楽しめる講座です。

「ダブル・ドゥードゥル」は、「両手で落書き」という意味で、プレイングの26種類のエクササイズの1つです。そのエクササイズを「遊ぶ」ように楽しめます。

この講座では、お手玉、スカーフ、クレヨン、鉛筆、絵筆など、さまざまな道具や画材を用いて、両手を使っていろいろな動きをしてみます。目に映るもの、感じたことを二次元の世界に表現していると、手と目の協調、微細運動のスキルなどを向上させたり、正中領域での仕事がやりやすくなったりするでしょう。日常生活での料理や楽器演奏、PC操作など両手を使う活動や文字を書く、はさみを使うなど片手での活動です。

就学前の子ども達にとっては、脳全体の発達を支え、知的学習の準備になります。

両手と両目、体全体を使って線や形や色を楽しみながら、自分の中のアーティストに目覚めてみませんか？

